

4 ヒシクイ

(カモ目)

兵庫県ランク:B

Anser fabalis

繁殖個体群:無 越冬個体群:B 通過個体群:調

◎天然記念物

環境省ランク:VU(絶滅危惧Ⅱ類)

種の概要

日本には、亜種ヒシクイと亜種オオヒシクイが渡来する。兵庫県に渡来するのは、ほとんどが亜種オオヒシクイ。オオヒシクイは北海道と青森では旅鳥、青森を除く本州の北・中部では冬鳥。県内では、かつては10月下旬から翌4月を通して見られていたが、最近の記録では10月下旬から翌2月までとなっている。見通しのよい湖沼や干潟、河川、沼沢地、水田などに生息し、泥中に生えるマコモの根茎部やヒシの種子を好んで採食する。亜種ヒシクイは四国、九州、沖縄でも迷行個体が記録される。



写真提供:松重和太

国内分布

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

県内分布 ()表記の市町では2002年以前に生息確認

神戸市、(姫路市)、明石市、(西宮市)、(洲本市)、(伊丹市)、豊岡市、加古川市、(小野市)、加西市、(加東市)、(稲美町)



主要な選定理由

影響の人為性					生態の脆弱性(特殊性)			学術上の希少性	
個体数激減	分布域激減	餌の可用性の低下	特殊競争圧	特殊捕食圧	特殊繁殖環境	特殊採餌環境	ねぐら休息環境・	局地的繁殖	希少

県内における生息状況およびその他特記事項

「今見られない」ランクからBランクに変更。
かつては小野市鴨池で100-200羽、伊丹市昆陽池で50-60羽が毎年越冬していた。1950年には西宮沖で300羽、1960年には神戸市街地上空を200羽の群れが通過するのが観察されている。1960年代に急減し、一時全く姿が見られなくなっていたが、最近、但馬地域と播磨地域の河川敷やため池に1桁台の個体数ながら、ほぼ定期的に渡来するようになってきたため、Bランクに変更した。

保護上の留意点

広い採食場所とねぐらの保全が重要。そのために稲刈り後の水田の一部を冬季そのまま残し、ねぐらとなる池や河川には人が入れないように立ち入りを制限することが必要。



写真提供:但馬野鳥の会